

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム ピアポート千寿苑		
所在地	千葉市中央区問屋町6-4		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成25年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設は電車やモノレールの駅から徒歩圏内で、ご家族やご友人が来苑するのに非常に便利な場所にあります。ユニット内に季節の飾り付けをしたり、様々な行事を計画したり、入居様と一緒に明るい雰囲気作りをこころがけています。館内は全てバリアフリーなので、入居後にお体が不自由になってもご希望によっては継続して生活していただくことができます。ショートステイ・デイサービス等併設されているので、一緒に行事やクラブ活動を行うこともあり、様々な人と交流を持つことができます。年度初めには毎年外出の計画を立て、近くのレストランへ外食に出かけたり、公共交通機関を使って今年は浅草へ出かけました。終末期を迎えた方もおられ、住み慣れた環境の中でいかに快適に過ごしていただくか考え、看取りを行う事ができました。今後も入居されている皆様が楽しく暮らせるよう、職員一同努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伝統ある「友和会」の運営するグループホームである。同一ビルに特養、ショートステイ、デイサービスなどが併設されており、相互に連携することで利用者が安心して暮らせる支援体制が構築されている。館内はすべて空間洗浄水(ソリューション・ウォーター)のミストで清潔が保たれている。専門の料理長が作る食事は秀逸で、楽しみにになっている。また利用者毎の体調にきめ細かく配慮した食事の支援が行われている。公共交通機関を利用しての都内等への外出支援は利用者にとって社会の一員である実感を味わえるだけでなく、一般の人に介護の様子を知っていただくという意味合いもあり大いに評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境で、ゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」という施設理念を、ユニット内に掲示し、いつでも見られるようにしている。	「いつも馴染みの環境で、ゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」という事業所理念を玄関に掲げ職員に徹底させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のマンションや団体に、地域交流室を会議の場として開放している。また、地域のレストランや商店に、買い物や外食で積極的に出かけている。	同一フロアにある地域交流室を開放することで地域の方々と接する機会を作るなど努力している。散歩を兼ねた買い物や、時には近くのレストランでの外食など地域との連携を視野に入れた活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所へ外出する事で、地域の方との触れ合いを通じ、認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度初めは介護保険改定と年間行事の予定の報告をご家族にした。又、人事の異動があり、回数行う事が出来なかった為、来年度には回数を増やしたいと思っている。	今年度は管理者の異動等の影響もあり、開催は3回となっている。家族代表からは職員の労をねぎらう言葉が寄せられている。介護相談員の会議への参加については要請中である。	地域包括支援センターとは、今後連携を強化して参加につなげられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や届け出等で不明な点は、その都度市の担当者に相談しながら解決している。	これまでの実績から、行政からの信頼は厚く、緊密な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットでのミーティングで身体拘束をしないケアについて話し合っている。また、2階玄関は階段が危険なため施錠しているが、1階正面玄関は自由に出入りできるようにしている。	身体拘束はしないという方針で臨んでいる。他のフロアの施設に出入りする利用者も、あらかじめ配布しているポートレートで確認され、さりげなく居室の支援をするなど工夫のあとが見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者施設での虐待についてニュースや新聞で知ったときは、ユニット内で職員と話し合い、また、口調が荒くなった時などはその都度職員同士で注意し、予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要と思われる入居者様が居ない為活用していないが、必要となった場合には、市の担当者等に相談し、活用しようと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学、面接時、入居時と、数回にわたり説明・相談できる機会を作り、利用者や家族の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でのご家族のアンケート結果をミーティング時に職員に伝え、今後のケアの方法について検討している。家族等が面会に来られた時には、随時職員・管理者より話を聞くようにしている。	アンケートには多くの感謝の声が寄せられている。職員と利用者の会話が少ないという声もあるが、全体的には理念に謳われているような、ゆったり、楽しい雰囲気ができている。特に新しく入居した利用者へは、早く馴染むことができるようきめ細かな配慮が見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回の人事考課を行う際に、職員の意見や提案が理事長まで届くようにしている。	職員のきびきびした動きは日ごろの働きやすさを象徴している。定期的な職員面接だけでなく、日常の勤務の中で意見が出しやすい環境ができている様子が職員とのヒアリングでも感じとることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年に二回人事考課を行い、職員個々の努力や実績、各管理者から見た勤務状況を把握できるようにしている。職員がやりがいを持って働けるように、施設内外の研修に参加しやすいよう参加費を施設が負担したり業務の中で出られるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、必要に応じて施設内外の研修に参加させている。未経験者も採用し、業務の中で必要な知識・技術が習得できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設を訪問することはなかなかできないが、併設事業所の職員、利用者と行事などで交流できるようにしている。ケアの方法等で悩んだ時は、他事業所の職員に相談する機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から情報を収集し、安心して生活が始められるよう配慮している。入居後もご本人やご家族から話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や入居前面接時にはご家族と職員のみで話を聞き、ご家族の心配事や要望等を話しやすい環境を作り、できるだけ分かりやすい説明を行い、ご家族の不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から普段の生活の様子を聞き、これからの支援を考えるように努めている。ご本人やご家族から他のサービスを利用したいと要望があった場合にはできるだけ要望に応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットの運営にあたり入居者の方に相談したり、家事を一緒に行ったり、職員が日々の悩みを相談するなど、支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や通院の付き添いをお願いしたり、来苑時に食事の介助をしていただくなど、職員と一緒にご本人を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人に面会協力をお願いしたり、入居間もない人には外出、外泊の協力をお願いし、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	入居間もない方の我が家への外泊や、馴染みの美容院や商店に出かけるなど、関係が継続されている。交流スペースでは地域の方が来られイベント行事が催され、利用者も参加してふれあいを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う人同士で食事の席が近くなるよう工夫するなど、利用者同士がコミュニケーションをとりやすいように工夫している。話すことが難しかったり耳が遠い人でも、職員が間に入ってコミュニケーションがとれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院している医療機関に面会に行ったり、利用者やご家族と退院後の生活について相談し、必要に応じて関係機関と調整をとっている。亡くなった後も葬儀に参列させていただき、ご家族と一緒に故人を偲ぶ機会を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望を表出することが難しい人が多いが、ご本人の表情や行動、ちょっとした一言から希望を推察し、支援できるように配慮している。	自らの思いを伝えることが難しい方が多くなっているが、日々の表情やふとした言葉から本人の今必要なこと希望に気づき、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、ご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、いつもと違う様子が見られた時は、職員同士で情報を共有し、観察に努め現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の処遇について、ご本人やご家族から希望を伺い、ユニット会議で相談し、介護計画を作成している。現状に変化がない場合もモニタリングを行い、現在行われているサービスが適当かどうか確認している。	介護計画は本人、家族からの希望、毎日のケース記録を基にユニット会議で話し合い作成している。スタッフ全員でモニタリングを行い、状態の変化時には、その都度見直し現状に合ったサービスを提供し家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録として個別に記録し、介護計画を立てる際の資料として役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望によっては、併設施設のクラブ活動への参加や訪問マッサージの利用、出かけたい場所への外出支援など、その時々ニーズに合わせ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる歌や踊りを鑑賞したりし、生活が豊かで楽しいものになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族で相談し、決めていただいている。通院する際は職員が付き添うか、必要な情報をご家族に説明した上で付き添っていただき、適切な医療が受けられるよう支援している。入居後、施設の往診医にかかりつけ医を変更する場合は、入居前のかかりつけ医から引継ぎが円滑にすすむよう配慮している。	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿っている。週2回嘱託医、歯科医の往診が有り、マッサージも希望により受けられる。精神科通院には家族のほかに看護師が付き添い連携シートや看護サマリーを提出するなど、医療は適切に受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が利用者の変化に気付いた時は看護師に報告し、必要な対応について指示を受けている。特に変化がなくても看護師により健康管理を行い、早期に変化を発見し、適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は医療機関へ連携シートや看護サマリーを提出し、入院後の治療や看護に役立ててもらっている。入院中も職員が訪問し医師や看護師と今後の治療や生活に必要なものなどについて相談し、退院後の生活が安心して送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	元気なうちから看取りに関する希望確認書を提出していただき、重度化した場合や終末期の過ごし方について相談するようにしている。看取り期になった場合はご本人・ご家族と日々の過ごし方について具体的に話し合い、協力できるようにしている。	入居時看取りに関する希望確認書に同意を得ている。重度化や終末期には家族とどのように過ごしたいか話し合いを重ねている。職員への研修は看護師により精神、技術、両面で行われ、看取り後の職員のケアは経験を共有することで対応できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は訓練を行えなかったが、実際に急変の対応があり、職員個々が適切な対応ができた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設や宿直者と協力しながら、消防署の指導の下、利用者と職員が一緒に参加し、定期的に災害訓練を行っている。	併設諸施設と合同で災害訓練を行っている。消防署指導の夜間想定避難訓練では、利用者も一緒に避難場所へ何分まで避難できるか確認している。広いバルコニーは一時的避難場所にもなり、防火壁、スプリンクラーは完備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録は外部の人から見られないように保管している。失禁して着替えた衣類をそれとわからないように片付ける等、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。不適切な対応がないように、職員同士も注意しあっている。	ひとり一人の人格を尊重し、羞恥心に配慮した介護は利用者の明るくにこやかな表情に表れている。「自分で出来る事は自分で」の支援で自信や誇りを持てる生活が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出しやすいように言葉掛けを工夫したり、何か行う際は事前に説明し、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的に何かに参加したりするのではなく、ご本人の希望を伺いながら、ご自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧するのが難しい人の代わりに職員が眉を書いたり、ヘアカラーを希望される方には職員で染髪したり、美容院に付き添う等ご本人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけが出来る人には一緒に行っている。食事が楽しみなものになるよう、献立で嫌いなものの代わりに別のものを提供したり、パンと米飯を選べたり、誕生日会の時は厨房に依頼してオードブルを提供している。	館内すべてをまかなう厨房で惣菜が作られ、ホームの台所ではご飯とみそ汁が用意される。下膳や洗い物を出来る方が率先して手伝っている。好みに合わせてメニューが変更できる食事は利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量が一日を通して十分な量が確保されているか、毎日チェックしている。一人ひとりの状態に応じて水分にトロミをつけたり、刻み食やペースト食、ゼリー食を提供している。定期的に併設施設の管理栄養士に相談し、十分な栄養が得られているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、ブラッシングのほか、歯磨きティッシュを使用して口腔ケアを行っている。ご自分で義歯の管理ができない人は、夕食後職員がお預かりし、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの一日の排泄パターンを確認し、それに合わせたトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本にしている。一人ひとり排泄パターンに合わせ誘導するが、本人の尿意、便意を尊重した支援をしている。可動式トイレの手すり、ウォシュレット便座で快適な処理等自立支援への対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行できない人に対しても水分摂取を促したり、食物繊維が多く含まれている補食を提供するなど、自然な排泄が促されるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が入浴に介助を要する為、現在は職員が複数いる10時～16時の間に入浴していただいている。その時間帯の中で、一人ひとりに希望を聞きながら入浴していただいている。必要に応じて併設施設の機械浴槽を借りて入浴を行っている。	入浴介助は全員必要だが、入浴時間はひとり一人の希望時間に対応し、個浴でゆっくり入れる支援で楽しめている。状態により併設施設の特設浴槽を利用している方も居る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば居室で休んでいただいたり、リビングのソファで休んでいただくなど、思い思いに過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容に変化があった場合は職員が把握できるように送りノートに記載し、各自確認できるようにしている。また、薬の情報が載っている資料をファイルに整理し、薬の保管庫に保存いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に掃除をしたり、洗濯物をたたむなど、日常での役割を持って生活をしていただいたり、心身の状態によりそのような活動が難しい人も、職員と一緒に外出・外食したり、レクリエーションを楽しむなどして生活の中に楽しみを見つけれられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体機能的に一人で外出できる人がほとんどいない為、個別にその日の希望で出かけるのは難しいが、希望を聞きながら外出行事を計画し、職員と一緒に外出している。今年も公共交通機関を利用し、都内の寺へ遊びに行った。	日常は職員と買い物や近くの公園に出かけているが、南面の広いベランダでの外気浴や交流スペースでの行事への参加が外出と同じ効果となっている。都市部の特性を生かし、車ではなく電車に乗っての外出支援も行っている。社会の一員である実感を味わい生き生きとした姿が見られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中にはご自分で金銭管理を行い、所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から届いた手紙を、文字が読めない人の代わりに職員が読んだり、希望があれば施設の電話をお貸して、好きなところに電話がかけられるように支援している。また、携帯電話を所持している人の操作を手伝い、好きなところに電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは季節に合った飾り付けをしたり、不快にならないように掃除をし、快適に過ごせるようにしている。時間帯に合わせて照明やロールカーテンで明るさの調整をしている。	リビングは広く清潔感が有り、利用者はソファでゆったりと過ごしている。利用者の作品や行事の写真が随所に飾られ、談話コーナーでは家族や来客とゆっくり出来る。ベランダは季節の野菜や花を育てたり、外気浴やお茶もできる寛げる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に自由に使えるソファやテーブル、椅子などを設置し、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく暮らせるよう、ご家族にお願いして慣れ親しんだものを置いていただけるように工夫している。	木のぬくもりが感じられる床は落ち着き、部屋の家具や照明は居心地が良いように工夫されている。洗面台も室内にあり、自分の生活リズムを維持でき、自分らしく安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、トイレに可動式の手すりが設置してあるなど、車椅子でも安全に生活できるように工夫されている。また、自立歩行できる人に対しては、トイレの場所をわかりやすくする為の掲示物を工夫したり、ユニット内を歩行中にいつでも休憩できるよう、廊下の途中に椅子やソファを置くなど安全に移動できるよう配慮している。		